

最高検による厚労省元局長事件検証結果報告に関する会長声明

本年12月24日、厚労省元局長事件について、最高検察庁が、その検証結果報告書（以下「本報告書」という。）を発表した。本報告書は、元局長事件について、裁判所の判断を前提としつつ、捜査を担当した検察官による不適切な取調べが存在したこと自体は、これを認めている。また、捜査体制などの不備についても言及している。

しかしながら、このような本報告書による検証では、元局長事件をはじめとする冤罪事件の再発を防ぐことは、不可能である。なぜなら、その検証は、あたかも当時の主任検察官や特捜部長個人の問題に帰するところが大きいかのような口吻であり、捜査手法の根本に問題があったとの認識に到達していないからである。それゆえ、そこに記載された再発防止策なるものも、捜査手法等の捜査構造の問題点に深く切り込むことなく、小手先の誤魔化しの再発防止策と評せざるをえない。

まず、本報告書は、再発防止策として、特捜部が担当する独自捜査事件に関し、取調べの録画・録音の試行を打ち出しているが、仮に、同検証の言わんとするところが、特捜部の取調べの一部を録画・録音することであるとすれば、それは、何ら問題の本質的解決には繋がらず、かえって危険なものでしかない。これが、既に裁判員裁判対象事件について施行されている一部録画・録音と同様、恣意的に一部のみを録画・録音するようなものであれば、元局長事件のような捜査機関の見立てた事件の構図にしたがって無理矢理調書を作成させ、もって公訴提起に至るといったこれまでの特捜捜査の問題点は、何ら解消しないばかりか、危険が倍化するというべきである。特に否認事件の場合に、一部録画・録音がなされる場面では、既に被疑者は、連日に亘る警察・検察の取調べにおいて、取調官から記憶と異なる供述を迫られ、疲弊し、既に記憶と異なる調書を作成している可能性が高い。その過程を録画・録音せず、単に最終局面のみを録画・録音するのであれば、その画面には、完全に抵抗する気力を失って、検察官の言うがままに、調書作成を認める被疑者が映し出されることとなる。このような映像は、かえって事実認定者の適切な認定を妨げる危険性を有する。そのことは、元局長事件において記憶と異なる元局長の関与についての調書作成を検察官から迫られ、抵抗する気力を失ってそのとおりの調書を作成した元係長について、一部録画がなされたことを想定すれば、容易に理解しうることである。

このような「再発防止策」では、第2・第3の元局長事件の発生を防止することなど到底できない。

本来、最高検は、元局長事件において密室における取調べにこそ問題があったことを真摯に認め、これを反省し、取調べ全過程の録画・録音、すなわち、可視化を速やかに実現することこそ検証結果として第一に挙げるべきであった。同検証は、そこから眼をそらしている。

次に、本報告書は、上級庁による指揮・指導の強化を掲げているが、これまでも、地検特捜部の捜査については、適宜特捜副部長・部長等決裁官への事件及びその立件に必要な証拠についての報告は行われていたはずである。しかしながら、厚労省元局長事件において、これら決裁は、およそ機能せず、その結果、検察庁は、元局長に対し、従前の方針どおり有罪の論告を行うに至ったのである。このような検察庁の体質的な問題は、本報告書にあるように、組織内にさらに決裁官（専門官）を設置したとしても何ら根本的な改善策にはならない。

最高検に必要なことは、自らの姿勢を根本的に改め、速やかに全証拠をリアルタイムで保全せしめる体制を整備することである。そして、その全リスト交付を弁護人に対して行うことによって、全面的証拠開示を実現する方策をこそ、志向すべきである。

上記のような問題点をはぐらかすような検証結果しか公表できない最高検を始めとする法務・検察当局には、もはや、自己を的確に批判する能力もないし、また自浄能力もないと断じざるを得ない。

当会は、12月24日の最高検による本報告書について、上記の点を強く批判するとともに、改めて被疑者等の取調べの可視化（全過程録画）を実現し、あわせて証拠の全リストの交付を一刻も早く実現することにより、全面証拠開示に途を拓いて、捜査の透明性を高めることを求める。これによってこそ、検察庁が説明責任を果たす組織に生まれ変わる抜本的改革がはじめて果たされうると考えるものである。

また、当会は、法務大臣が設置した諮問機関である「検察の在り方検討会議」に対して、検察捜査の適正化に関して、捜査構造の問題点を深く調査した上で、取調べ全過程の録画・録音の速やかな実現と全証拠リスト交付を弁護人に対して行うことを含む全面的証拠開示の実現に向けた提言がなされることを強く求めるものである。

2010年（平成22年）12月28日

大阪弁護士会

会長 金子 武嗣